

明治三十七年四月

國盛社養蠶蠶原真理秘傳全

上毛

國盛社藏版

古へハ之ヲ富マシメ而ル後禮ヲ行フト今ヤ外交日ニ繁  
多一朔禮ニ垂ルアレハ之レヲ兵戈ニ惣ヘサル能ハス然  
リ而メ兵備及其他百般精巧富ニ由ラサルハナシ叔山氏  
夙ニ茲ニ見ル所アリ我國殖産蠶業ヨリ大且ツ美ナルハ  
ナシ之ニ依テ專攻措ズ研究練磨經驗年茲ニ久シ苦辛熱  
望ノ効遂ニ此書ヲ著スニ到ル嗚呼世ノ養蠶家之レカ講  
讀ヲ勉メ之ヲ實際ニ適合セシムルヲ得ハ財源已ニ滿ツ  
財源滿レハ國富兵強ク國威ノ隆盛期シ俟ツヘキ已矣

凡例

- 一 本書は養蠶初業者の爲め可成平易なる文字を用ゆ
- 一 本書は實際研究の結果にして他の空論と異なり
- 一 本書は最も最後の目的とする良繭を取るにあり
- 一 本書は國利民福を以て第一の目的とす
- 一 本書は何流何育を不問して飼育の出来る特色あり
- 一 本書は平和の戦いに大勝利を得ん目的なり
- 一 本書は養蠶進化悪習を覺破するを目的とす

著者誌

抑々養蠶講話の順序は先づ第一繭の撰擇第二蛾の撰拔第三種の貯藏第四催青第五掃立第六室の構造第七新陳代謝第八寒暖第九乾濕第十眠起加減第十一給桑如何第十二上簇の蠶厚薄右之如く順序正しく講話せずんは法にあらざると云へども是迄諸熟練者陳述致し置今余が喋々するに至らん該十二條を講義するとして如何に豊作あるや乃確定を聞かず若し順序正しく講義する時は十日間話さゞれば終結せじ嗚呼話し

長くして始めの話し腐敗して菌を生ずるなり長講話は迷の基礎ありと覺知すべし  
余は該法を研究したるも更に其効を得る能わず故に蠶兒には眞理原則妙所あるを數  
年間の研究に依て眞理妙所を得たり數百人の試験に供し其結果にして不作するとな  
く故に養蠶改良國盛社を創立し之を公にして國利民福を計らん爲め澹泊にして俗幼  
よ通する一書を草す

## 國盛社養蠶

眞理  
原則

## 秘傳

蠶室構造如何に従り豊凶なき説

蠶室構造如何に従り豊凶を決する事はなきは余の斷言する處なり余の積年研究した  
るを示さんに構造の如何に依り豊凶を決するとすれば其れに因て優勝劣敗あるが當  
然の理あり今や日新月歩の時に依て構造の種類多々ありと雖ども先づ舊式の構造多  
く一般改造を見づして或は縣に依り或は郡に依り或は村里により百家百様にして或  
は廣き室狭き室或は高く低く或は二階あり地下室あり或は瓦家根又は板家葺家根あり  
て蠶室を改造し流派を立て高山流順氣流西ヶ原流等の構造に似たる者又是れに開閉  
自在の戸の有るあり無きあり此点に付て豊凶を決するとせば何れにあるか即ち新式  
構造に豊作あるとせば舊式は凶作なり又高低の室に依て豊凶あるとせば何んぞ必ず  
高きにも豊作のみあると限らず又低きとも必ず凶作するとは限らざるなり先づ高き  
室を善とするもの十年間續て豊作したるを聞かず又低き家にて十年間續て不作する  
と確定したる事もなく又開閉自在なる家にて十年間平均豊作したるを聞かず又非常

の破れ家にては豊作する事あり是に依て是れを見れば室の構造如何に由て豊凶を決する事なきは天地日月を視るよりも猶明かなり先づ茲に一室より一種の蠶種二枚ありとして甲と乙との二手にて甲乙を二日間を置に掃立するに必ず何れにか優劣豊凶する事あり是れに依るに蠶兒には他に一つの妙所ありて家や室の構造如何に據りて豊凶なき事明かなり猥りに空論に執着すべからず

### 養蠶は寒暖の如何に従り豊凶なき説

蠶業は世の進歩と共に進み隨て議論も喋々嘩々として種々様々の流を建て派を別ちて前陳の如き高山流順氣流公益社供益社等ありて温暖育折中育清涼育放任育天日育等あるも何流が豊作何流が凶作すとせば流によりて優り流によりて劣る可きが當然の理なり然るに茲に一例を上げんに極めて温暖育にて平均八九十度にて飼育する者あり折中育にて六七十度に飼育する者あり清涼育にて五六十度に飼育する者あり放任育にて寒暖の如何をも頓着せず飼育する者あり當時流行の天日育ありて各々確守する一流あり若し是を論理的にせば温暖に豊作あるとする時は折中には豊作なきが理なり或は折中に豊作あるとせば清涼温暖には豊作する事なきが至當の理なり或清

涼に豊作あるとせば温暖折中には豊作なきが理あり茲に一つの天日育あり氣候の變動最も烈しき時に日中百度以上に夜は四五十度位の内に飼育するも決して不作する事なく意外の好結果を得る事あり若し天日育に豊作の理あるとせば室内育には豊作なきが道理なり以上の飼育法によりて考ふるに寒暖の如何に依りて豊凶の決すると云ふ論者は夢中の働きにして骨折損草臥儲と云ふべきなり諸君よ世の惡進化に熱する者を覺破し活眼を展き富國の基たる蠶兒には他に必ず生理上妙所ある事を知るべし

寒暖の如何は豊凶の争ひにあらず蠶業經濟の機關として飼育中の經費の争ひにして若し火力用ひ日數を早く上簇をなさしめんか亦た火力を用ひず放任にして日數を延ばすか假に謂へば若し十人の人夫を使ふとして先づ火力を用ひ三十日にて上簇をなさしめ其炭費何程と假定して亦放任飼にして三十五日にして上簇をなさしめ火力飼と放任飼とは茲に五日間の差あり人夫十人は五日間の五十人なり給料食料何程として亦炭料何程とし算を立て如何か利あるやを考ひ利益あるを用ひべし故に寒暖は豊凶の關係にあらず經濟上の關係としるべし

養蠶は乾濕に従りて豊凶なき説

蠶兒飼育に付て乾濕は今日蠶業界の一大問題なり乾と濕との如何によりて優劣の分るゝとの議論非常にして恰も噴火山の破裂の如く口を極めて罵々せる流派各力ありと雖も怪むに足らず是時世病者流の致す所あるのみ余輩多年の辛苦に財産を抛て身軀を犠牲に供し研究したる結果濕氣は反て蠶兒に至極適當にして欠くべからざるの好氣あると知れり参考の爲め茲に一例を擧げんに世間の人氣に反對あるが蠶には眞理なり如何となれば明治以前又初年頃農業家の蠶業を副業として飼育する時代は今日よ比すれば實に濕氣多量にして又其慘酷なる飼育方法は俗にまゝ子育の如くして別に排氣窓なく火力は使用せず戸障子開閉なく蕪沙高く蠶兒には留守居をさせ給桑は一日に三回位にして皆農業の合間に勤めたりしも好結果を得たり此理に因て觀れば濕氣多量なる事明かなり是等の理に依て愚考するに蠶には當節の人氣に反對にして濕氣多量に飼育するが適當なるは明かなり宜しく覺知すべし

我群馬縣利根郡の繭は農事副業時代即ち濕氣育時代は實に良繭を得て非常に高評にて製糸家は競て買入に油斷なく朝夕之に奔走して日出日入をも知らざる程にして有

名なる賞賛を得たり然るに近頃乾燥時代になり人々夢我夢中に乾燥々々ど乾燥熱に胃されてより繭は劣等となり收購は年々不作氣味を呈し實に氣の毒の場合に致れり因て我郡長閣下蠶業の退歩を憂ひ之れが獎勵に盡力せられしも人々皆乾燥熱と曰んか進化熱と曰んか時代熱と曰んか是に迷て遂に其功もなく只だ技術上精巧と云に止まるのみなり嗚呼強健なる哉蠶兒は天然育すら好結果あり然るに何を以て迷道に至るや吐々諸君よ養蠶道に迷ひし時は友なき道を尋めべし(是レハ世ノ乾燥熱者流ヲ友トセザルノ謂ナリ)

又今日にても蠶業初心にて夢我夢中にて無論技術不精巧にして眠起すら視分らず給桑慘酷にして空氣の新陳代謝も行わず寒暖乾濕は放任にして而も其人に豊作に良繭を得たり然れども何ぞ羨に足らん其人は夢中に飼育したるも二ヶ年は急度豊作するも三ヶ年以上より漸次不作の氣味を催す者は一般世に有勝なり此の者初二年は夢我夢中にて自然眞理の道を歩行する故豊作を得たるが三年目より少しく自慢心起き隨て進化熱等の惡熱侵入し自分巧者となり眞理の道を踏迷ひ技術は熟練すれども豊作を得る事難きが多者之に従て觀れば余業時代者の豊作を得たると今日初心其人の飼

育と比的したるにあらずや此等の理に依るに多少顯氣育に利益多し世人は唯進歩とか進化とか喋々して此の道に走り過き幹を忘れ枝梢に至り大切な基木を忘るゝ事あり注意すべきあり

又乾燥の失敗の一例を擧げんに明治十四五年の頃より乾燥の聲熾なると同時に空頭病益々蕃殖し所々に休業を出したる月夜星の如し同友諸君以上の理を相ひ考へ眞の改良を謀り玉へ而して乾燥の不可なるを知らせられん事を

蠶病は時世に因て一定の病蠶に變化する説

研究は遂に其堂に至ると故きを尋ね新しきを知ると古人の曰れた如く予が研究の結果を参考の爲め陳述せんに昔農家の副業時代には偶然豊作を得たるも不幸に志て失敗する時は世間一般蠶兒の病は十中八九は白蠶蠶俗にこまやりにて斃死したり又明治初年生糸の賀易以來一步進て病も變化して一般農蠶と云ひ俗に節高と云ふ病を起し是又十中八九は該病にて斃死したり略は明治十四五年頃迄かりし又明治十四五年以來今日に至る迄又九三步に進み濕微鏡的黴菌微粒子發見以來空頭病俗にすぎ蠶に變病して益々該病蕃殖蔓延し効果を得る能はず今日すぎ蠶十中の九

あり時世に依り下圖の如く世の進歩と共に利害得失世に轉するなり學理が進めば病も進み昔藪醫者にて間に合しが今日は博士にても治療しがたき病あり斯の如く武器精巧になると其々の戦争あるが如く蠶兒も又世の進化と共に病を異にし益々至難の業となり議論は愈々八ヶ間敷なりて蠶業は收支償はざる今日となり病も圖の如く轉々して源の地に至るならん噫蠶業は以後退歩の秋至らん實に嘆々の至りなり宜しく以後は空論を排し方行を一定し眞の改良なくんは右述たる通り收支償はずして同友諸君意外の悲惨の境界に沈淪せん事あらん同友諸君深く考顧せらるべし



蠶業家世の進化熱を受けて迷ふ説

蠶業は世の進化と共に種々様々の流派の注射を受けて弊害を生ずる事少からず今一例擧げんに種の良否或は貯藏の如何催青法の良否或は掃立の順序法々式は室の良否或

は乾濕加減或寒暖の如何に因て或は給桑の加減の如何などと種々様々の注射を受けて而も何れの点に豊凶あるや未だ不明にして進化熱益と感染し夢中の所爲にて時勢病氣頭蠶を益々傳播し遂には其主人迄も蠶病に類似したる病を起し頭は重く鉢巻して太切の生命迄損する事あり早く活眼を展き前陳の如き注射熱や進化熱を覺破し天壽迄も損する事なき様御用心あるべし

厚飼は蠶兒に至極適當なる説

蠶業は益々盛況とあると共に飼育も八釜しくなり人性に比較し多人數集合する時は頭痛し或は心腦を損去或は上氣するが如く蠶も厚飼を嫌ひ今日薄飼育せざる人は通例でなき様嘲ける者あり是等は實は研究淺き者の謂なり予が多年研究の結果彼の性質を試験するに野生の虫類と性を異にせず非常の集合の性質ありて桑食終ると共に集合して體と體とを磨擦して愉快をかし運動をなし桑を消化して後の給桑を待て居る程故桑食進み能く自然と健康となる事疑なきなり茲に試験の一例を擧て參考に供せん先づ甲の籠と乙籠と二枚あり甲の籠に蠶兒千頭を入れ置乙の籠に千五百頭入れ置給桑を甲の千頭に百目乙の千五百頭に百五十目を與へ甲乙共に同時間を経て之

れを見れば甲の千頭は今だ食終らず乙の千五百頭は食ひ終りたり是正しく集合して運動をなしたる結果消化力強大になりしものなり之に従て觀るに薄飼は昆虫性生理を防げ不適當の所作なり然るに厚飼は生理自由を與ひ極々適當の所作なり蠶兒は桑進み能く良繭を得るが蠶業家の最も秘術なり世の疑ひを掃ひ之れを人に知らしめんが爲めに茲に研究の結果を參考の爲め供述す

蠶兒は掃立三日間内に豊凶の前兆を見別け得る説

一蠶兒掃立に種々様々の流儀あると雖も其年の氣候と其人の技術により掃立を終て蠶座を直し羽根を以て四角になし周圍の紙には一頭もあき様掃き込み漸時の間だ之を見れば周圍の座紙に匂ひ出す蠶兒澤山有る時は其蠶兒は如何なる技術家にても空氣の流通又は寒暖の如何乾濕の注意をなし給桑の加減を注意し辛苦するも上作する事能はざるなり

二掃立より二日目に蠶沙を切り蠶座を蔓殖する期に至り今だ蠶座を切らざる内座紙を蠶座の中央より折返し其座下の紙に蠶兒澤山附たる時は其養蠶は如何に骨折しても前述の通り如何なる技術家にてても豊作する事難し

三掃立はきだより三日目に至り一面の蠶兒を觀て俗に毛振けがの日にして良否を能く見別る日なり普通の蠶兒より少さく毛黒く蠶より少しく大き位の蠶兒澤山見へたる蠶は如何飼育するも前陳の通り豊作を得る能はざるあり俗に之を三立さんりんとして差支さしつかへなき者なり疑ふ可からず

右三種の病蠶見へざる時は如何なる不熟練者が夢我夢中に飼育するも決して不作する事なきは明なり故に能く注意すべし蠶兒には一つの妙所ある事を必ず不作無き者なり以下追々述べし

#### 病蠶撰拔容易なる説

病蠶を飼育する時は損害非常なる事世人皆知れり然れども前述の三立の蠶兒種の仕換を爲す事出来ず止むを得ざる場合に飼育せんと欲する時は先づ一眠二眠の内に給桑多量にして普通より一二回も餘分に給桑し少しく濕氣飼育にする時は必ず病蠶の有限り不眠蠶とあるべし該不眠蠶を網みにて取捨て眠に就きたる蠶兒は無病にて其後如何なる至難に遇にするも發病する事なく四眠後美事なる結繭するあり又病蠶に桑を少量にして温度を用ひ暖かに飼育する時は一眠に眠は美事なるも三眠以上に至

り發病して不揃となり四眠後四五日頃には必ず空頭病にて失敗する者多し故に一眠に眠る頃迄に該法を以て撰拔する方實に有利有益なり而して殘桑ある時は相當に賣拂時は人手間少なくして利益多大なり

又前に述べたる三立の病蠶見へざる蠶兒は給桑多量にして濕氣を與ひ慘酷に飼育するも必ず不眠蠶を出さず乾燥するも四眠後に至り空頸病も出ず初心者か飼育するも不作する事なく豊作すべし予が研究に依るゝ無病蠶は如何なる至難に遇も給桑怠たらざる時は足下あしのしたとするの外斃死蠶なき事明なり實に妙味ある虫なり同友者諸士能く注意注目すべし

#### 蠶種製造法併て良種を得る説

蠶種製造法に附ては議論種々有ると雖も容易なる者あり而し只だ交尾時間に因て良否を別つ先づ良種を得んと欲するには交尾時間は凡そ九時或は十時間にすべし該時間交尾する時は蝶其體の卵數に對し精液の作用充分に分布する事明かなり又交尾時間間に早く脱尾すれば精囊に充て蝶の體の卵中に精液の不足を呈し虛弱性多く其種を掃立する時は不作する事疑ひなし明治二十年頃には今日とは異に去て秋蠶なく夏蠶

多く其年春蠶豊作するも桑非常に豊作にして夏蠶多く流行し其年子が夏蠶種を製造したるに賣行又非常にて多忙故交尾三四時間にて脱尾して其種を賣出し又其蝶を再び交尾おさしめ其後八時間にして脱尾させて種を出せしよ前の三四時間交尾したる種は皆失敗し買主より苦情を受けしに後ちに再交尾八時間の種は非常に好結果なりし是れに依て双方を考ふるに交尾長きは豊作する者なりし是は予も實地に試験を重ねたれば疑ふなかれ

其後も年々交尾長短を研究するに交尾短かきは虚弱多く又上結果を得る能はず故に交尾時間は九時間以上十時間爲さしめは必ず上種として飼育すべし

又如何なる名譽あり如何程上手なる種製家と雖も種を多く製造し一日何千と製する時は止むを得ず早く脱尾し始むる故其は下等となる交尾より四五時間にて製種を始め十時間に過ぎる故一日に切りたる種も交尾の長短に因て上中下の三階級になる者なり脱尾の始め正午十二時迄の脱尾したるは中等あり一時より二時迄に脱尾したるは中等なり二時より五時迄に脱尾したるは極上等とす故に愛國の神心を有する製種家たる者此の理に依て深切に十時間の交尾を爲しめ良種を出す事に忠實あるべし購

買者は良蠶の結果となり彼我の利益を得るなり以上陳ふるか如く若し製種家の不深切なる時は自から手種を製すべし

蠶種を寒水に浸入するは至極効力ある説

蠶種を寒水に浸し置くは非常の有効あり先づ第一煙の附着を沈滌し有害なる汚を取り虚弱性を斃死せしめ寒冷を與ひ生理の自由をなさしめは強壯とあるは至然の理として明かなり蠶兒の生理は天賦の最能を與ふる者なり先づ我が日本蠶種輸出盛んなる時代歐羅巴人日本にて種を購求し十月初旬の頃横濱を解纜し印度洋の港に碇泊し都合上日数を費やし翌三月中旬に歐羅巴に着船したるに一ヶ年經過したるも蠶兒の孵化せざるに遂に又翌年にならんと云ひまど又是に反對して其頃佛蘭西人日本人に蠶種を約束したるも少しの間違ひにて約束の期日に受渡しする事出来ず爲に三圓の違約金を出したりと云佛蘭西人も出帆に間に合ざる故困入しが都合上其年十一月下旬に出發の漁船に積込送りたるに彼の赤道直下の印度洋を過る頃蠶兒残らず發生したりと云如く一度寒冷に感ずれば發生すると曰ふ故に一度寒氣に遇は生理上欠くべからざる者なり此れ造化の妙所にして敢て人工を煩はすの要なきなりと横井

博士も謂へり

健康蠶兒に至難の試験するも斃蠶をさ説

蠶兒の強健なる實事は驚べき者にして世の生物と比較すべき者なき程にて最も至難の試験を爲すも其苦難に耐へ健全として生育する者なり先づ試験の結果を示さんに茲に甲と乙丙との三種ありとし甲の籠十枚乙の籠も丙も同じく十枚あり甲の蠶兒には一日絶食させ乙には二日丙には三日絶食あさしむるも敢て蠶体に不都合なかりし又眠起の際桑付けづして四五日絶食なしたるも皆結繭したり又落ちたる虫を拾ひ四五間位抛げる事あり彼れ等虫類の身人類の四五間は彼れに取り何拾町なるや想思するに餘りあり以上の如く抛投するも蠶体に異動なく毫も驚かざるなり實に健強の昆虫ならづや又先年遇然に至難なる試験せし人あり時は明治二十五年（但し蠶種の試験）信州の上田某なる種商人取扱の際に種一枚中庭に飛ひ落ちたるを知らず其夜大雪降り積り積雪の下となり翌年三月雪解けて庭前を見るに蠶種あるを發見し飛散して長らく雪下にありし事を知り試みに飼育したるに其の結果能く去て此の種に及ぶ物なかりしと實地試験者より聞及べり又奥州掛田の某或時寒水浴をさせんと流水

の所へ種を糸を附け一夜置き翌朝に至り見れば糸は切れて種は何所へか流失したるに依て其邊を尋ねしも見當らず遂に其儘に捨て置たりしに翌年春三月河下の土溜りの所に發見し是れを試育せしに最も健康に生育して其蠶に及ぶ物なき程なりと實に造化の妙と云べし又奥州の佐藤先生方に書生たりし千葉縣人及川直吉氏拙家に養蠶修業として三ヶ年間來り其人實行秘術として曰く今日發生すべき蠶を三日間程延引する法は發生の早朝清水に五分間入置き引揚て座敷の冷き所にて煙りの廻らざる所に掛置種紙の乾かざる内は必ず發生せず三日間は延引する者なりと此法は霜害の難又は主人不在とよて困却する時應用する法にして余の試験に依ても不都合なき事証明する所なり以上の如く蠶は其程に六ヶ敷者にはあき者なり寧ろ容易なる業なり

蠶種貯藏は容易なる説

蠶種貯藏に付て議論數百種あり實地の良否未だ不分明にして空論に流るる者多し抑も蠶種の變化は温度に依り生理上面白き關係あり寒冷に一度遭遇して温度を感じずれば發生する者故貯藏は寒冷なる所を見立春期掃立の期迄は温度を感じざる所を見當

貯蔵をすべし然るに特に貯蔵を立つる者あるも其等の必要なき様にせねば其村々の寺院又は社内等の寒冷なる所に置貯蔵すれば容易にして且つ経済的なり必ず六ヶ敷者には非らず然れども前述べたる如く種ね一度寒冷に遭ひ亦た温度を感ずる時は何時を不問孵化を催す故に掃立の期日迄では必ず温度の感んぜざる所を見立貯蔵すべし若し度中して温度を感じ孵化を催したるを亦た寒冷にて孵化を滞めたる種を掃立てする時は何如なる技術家にて不作する事疑ひなきなり卵中にて虫生長したる以上は少しは滞留をさしめても差支あきなり

蠶兒には一定ある眞理原則ある説

蠶兒は元野生の一昆虫天賦の造化生理の自由を脱脚せずと云ふ事は研究より因て明かかり然るに今日の人は人工の作用の如何に従ると云ふ者あり是大なる間違なり昆虫類は總て集合性あるが故に今日集合性は脱脚せず又今日流行の天日育にても豊作す數年間研磨の結果昆虫性を脱脚せぬが故なり  
蠶兒には天賦の野生自由行動の生理を防げなきを眞理原則と云ふなり春夏秋冬の四季は天賦の動物に與へたる者にして寒暖乾濕は陰陽にして欠くべからざる者なり右

二点を人工に依て作製すると云ふが天賦の眞理原則に違背したる者故今日は眞理の枝葉に走り過ち益不作を致し退歩の道に至り唯々蠶は奇怪動物と云ふの外なし此れ眞理を知らざる輩考へなり而し遂には先祖傳來の財産は無論生命迄も損する事あり噫實に注意し又眞の改良の策なくんばあらざるなり感ずる事あり初心者の爲め容易に解さしめん爲め左に大要を記さん

時は明治三十三年余は養蠶改良國盛社を創立したり其の時春亭上に書を枕として忽焉華胥に入れば數萬の人輩々として余を迎へ語て曰く我等は蠶女にして御身に茲に來臨を煩はせしは他にあらず御身の創立せし國盛社ある三字に對志御願ひ申度事あり其は余等は昔より種々様々の變遷盛衰を経て今日に至りしに今日は蠶業熱心者多くも其實を知らず徒らに空論に流れ行く者多し故に私等の生理及び性質の理由を語て全國同業家に御披露致度と懇願せり余も乞ふ所なれば快諾せり時に蠶女曰く

第一我等の生理及び性質を世の老若男女に明解し安き様述べ申さんに先づ我等の神虫は一心脛にして慾もなく國家的感念もなく子孫經續の考へもなく桑を貯蔵

し後々食すると云ふ考へもなく金錢の心配もなく何等の考案もなし故に一心脛動物と云ふのであります故に各位方の様に心経病は起らず氣遣はあります  
第二に我等が躰は裸かにて暮せる様に造化されて外皮一枚にて寒暖を凌げる様に出来たる故熱もなく白血にて夜中寒さに遇ても感冒に犯さる様の事なく實に各様とは性質を異にし脂肪が違ふ故寒暑の爲め發病せぬ事を確言して置きます  
第三に我等生育は皆様と違ひ食物は造化の給のにて桑一種のみで他に食物はありません故に食合せに依る病氣も起きぬ又諺に曰く口は禍の門とて種々の食合せより病氣を起す者あるも我等は一食なれば左様の病氣なく桑食の多少何れも我等の健康を害せざる造化の妙あり又無理に同蠶中強がる心もなく是の如き故決して御心配を掛る事はありません  
第四我等の愉快と言ふのは各様と性を異にして集合して躰を磨擦するのが至極快樂のであります故に躰を磨擦する事則ち集合するが我等の性で之れを集合性と云ひます而して給桑あれば自由に別れて食し食し終れば集合して愉快をなし次の給桑迄樂しんで居升集合の際頭に登り又は背負ふても腹を立てず或は喧嘩をなす者

もなく集合し縦横に踏み歩く程大愉快である又其の爲め腹の空きも能く從て消化器も健全故躰を健康にて體は堅く少く繭は割合に大きく堅く糸長けよく兩端ぬけなく踊少さく蝶も少くして而も強く卵は澤山産み微粒子なく後年迄も良蠶となる右之通りよて厚飼が宜しく且つ五徳の法で我々の愉快で利益は澤山である是非厚飼をなす様御披露を願ふ又桑少しく多量に願ふ事御疑ひあるな  
第五に我等は濕氣を能く好み升故少しく濕ける様に飼育を願ひます御承知の通り桑食し終ると少しく凹みたる所へ集合するのは濕潤の場所を見立つるのであります乾きたる所は凌ぎ悪く濕氣の所が凌ぎ能き故籠の周圍の乾きたる所には居りません中の少しく濕氣の有る所へ集合す故に能く見れば瞭然と其事實が御解りになります  
す湿不作したと言のが十中の八九で有りました各様は誤解して居るのであります湿けて不作したのでなく不作したから濕るので有ます  
繭中たる蠶は掃立其日より濕升當りたる蠶は掃立日より燥き升我等が生理の自由を防げ人工作用により原則を踏違ひ病蠶を多く造り其蠶は掃立日より病蠶連が下痢して軟らかな糞をなし其糞は形状恰も鼠の糞の如く(カビ)發したるは濕けるので有升其蠶には掃立三

日迄には三立と云ふ前兆が有升掃立の期も掃終りて視れば蠶座の外座に匍出し升亦九一つには掃立二日目に座を廣げむとする際未だ手を附けざる内に座の中央より座紙を以て折返し座紙に蠶澤山附て居ますれば其蠶は不作なり亦九一つは掃立より三日目にも毛振の期に至り蠶座一面を視て毛振わさる黒き蠶澤山あれば其蠶も不作するので是が三日迄の不作れ前兆であり升右之通り三立を見分て此の三立ある蠶は掃立其日より濕氣多量にして除防する事を得ず故に濕けはづしたれでなくはづして濕けるので有升故に我等が生理の自由を防げず原則の道を直に行時は匍出す者なく亦座紙に附着も亦く毛振あさる者もなく健康蠶となりて糞も堅く恰も胡瓜を筒切りよしたるが如く其糞を少しく空氣に觸れしむると煙硝の粉の如くして沙下に澱み決して濕ける事なく其蠶は豊作の前兆なり良き虫れ作り其良き蠶に少しく濕氣向に飼取時は非常の良繭を得て利益多大なり該法を皆様誤解なき様御注目あるべし此原則は終局にあり

第六我等は各位と體の比較が出来ません如何と云れば毛蠶の時に給與されしと云めば我體より目量何倍も重き者を散布し或は桑れ骨は材木の如く我體の目量より

百倍に百倍重き物を我が丈けより百丈も高き所から散布しても我體もあたるも決して負傷せぬ實に強堅無類の體であり升故に飼育の惨酷には驚きませんから御安心なさるべし

右御話したる一より六迄も明瞭になりましたかと余に問ふに余曰く以上の所説は既に知らせしも希はくは天賦の生理自由の原則を承りたしと乞ひしに快諾して曰く我等生理自由原則は掃立にあり即ち發生期に至り我等は甲乙丙丁と發生したるに人工作製として一所に取扱をなし食事の自由を防げ甲も發生したる蠶は空服なる事非常に去て呼吸甚だしく且つ匍廻り温度高き時期には益々炭酸瓦斯傳播し其瓦斯を吸収して病蠶となるなり而して温度高き時長時間置時は甲乙丙迄斯の如く病蠶にする事有而して温度の高低時間の長短に因て病蠶の増減あります是を短言せば發生して食慾の發達すると同時に給桑するを最も大切なる事にして是を天賦の生理自由自食動を防げずと言ふなり是れ眞理の原則にして是れに従て掃立する時は豊作疑なきなり世の人最も容易き掃立するは苞紙に置くを一般とす是れを掃立するに毛蠶が種紙の裏らへ廻らざる中に苞紙を廣げて早速給桑するを眞理にかなふと言ふ種の裏に廻

らざる内は甲乙位發生したるなり丙と丁とは其内温度も高くなる故に發生して甲乙に給桑したる殘桑を丙丁發生する同時に食する故生理の自由を防げぬ法なり而して至極容易なる法は時間にて之を定むるに年々間違の無き法は掃立其日温度華氏六十五度位の時は午前十一時迄には必ず包紙を廣げると同時に手早く種紙の上の毛蠶に給桑すべし若し又た其時に至り温度高くして七八十度になる時は午前九時若くは十時迄に必ず其紙を廣げると同時に給桑すべし丙丁は十二時乃至一時位迄發生する故種紙の上に十二時迄も置き掃き落す迄には種紙の上に薄く三回程給桑すべし若し非常に發生長き年には毛蠶の先出たるに給桑少なき時は毛蠶桑の周圍を取巻き後出の蠶兒は食する事不叶其内に炭酸瓦斯を吸取して病蠶となるなり故に年々確乎ある法を知らざる故に割合に斃死するなり又遇然自食を防げなき年あり其年には豊作するなり該法は是迄正しく知らざる爲め至難の業と言ひ六かき事と思ひ居りたるあり然るに是迄手術家も其の道を通り去事も亦た通らざる事もあり不熟練者にも遇然通る事あり亦た通らざる事もあり故に此れ迄は上手下手なし右之法に従て掃立する時は何社何流何家何育にても十年平均不作する事なし何流の掃立にても宜しき

故發生したる毛蠶に食慾發達すると同時に桑食する様にして空腹の者一頭もなき様にすれば何流にても宜しく或人論して曰く蠶地の地方は依て異なるありと其れは無論地方にては時間をそく掃立温度の都合早きもあり其は相考へて致すべく飼育法は何流何地にしても不都合なき物あり御安心あるべし唯我等の目的は良繭を澤山出して國利民福を謀るのみ歌に眞理曰く

あめあられ雪や氷とへだつれど

落れはおなじ谷川の水

とけのほるふもとの道はおほけれど

おなじたかねれ月をかかめん

と言ひし如く最後の目的は同じ者あれば前に陳し事夢々疑ひ玉わず國盛社の字義も背き玉など蠶女は何處へか行きたりと思ひして夢は醒めたり噫是れ神夢なりと早速筆を探り以て今は神女の告げにより之れを公けになす事とせり見ん人余が不學あるを咎めず編へに余が蠶業も熱誠して産を抛ち身軀の健康を傷害するを不顧實驗に勤むるを諒せられ文章劣惡に嘲哂黜陟なからむ事を

養蠶掃立の順序

- 第一 蠶具を取揃へ置く事
- 第二 種紙を廣げる事
- 第三 糲糠及び切桑を散布する事
- 第四五種の左右の糸を持ちて裏より箸にて打落す事
- 第六 蠶座を直す事
- 第七 座直しの桑を散布する事

右之順序にて正しく掃立する時は必ず不作なし又夏秋蠶も前陳の如く手揃にして掃立べし前に述べたる生理の防げせざる様に注意すべし夏秋蠶の掃立は午前六時迄に必ず掃立を始むべし夏秋は氣節温度高く故に夜明方は必ず發生を始め其期を誤て延引する時は非常の失敗あるべし春蠶と違ひ温度高き時故從て瓦斯多く給桑遅くして蠶兒は空腹となりたる際に瓦斯を吸収する故各空頭蠶となるなり

毛蠶發して一回桑を食せば瓦斯の効力なしと右之通り午前六時には必ず掃立すべし是法は子孫迄言ひ傳へ置くべし必ず不作なし夏秋蠶には前に述置きたる蝶の交尾九

時十時間置べし然らざる種は斷じて掃立致すべからず一言にして曰はゞ蝶の交尾の長短と貯藏の後ち中度温度感ぜずと掃立との三者が眞理にして最も蠶業家の尊重すべき密傳なり右の如く掃立する時蠶不揃ひなると云者あり是は大きな間違なりたとひ不揃ひても良蠶故に眠のせめ桑にて能く揃をあり斯如く揃立したる蠶は眠の際によく眠に付て起蠶見えざる内に桑留になるなり右ぎ述べたる如く甲乙丙丁に發生する故不揃が眞理なり是を揃いんとするが爲に抑々不作基礎となり故に今日は理論上揃えんとする故生理を違背し故に不作するあり右ぎ述べたる如く掃立する時は能く揃をこと疑ひなきなり右ぎ確言致し置く御試験あるべし人氣反對が此理なり

桑の萎縮病を治療する法

桑樹萎縮病は蠶業界の一大問題なり既に第九帝國議會に建議案提出せられたり余も其際農商務省に治療法を建白したるに間なく船津先生直接余が桑園を巡視して可否を認め先生の感心を得たり其後先生も余が研究したる治療法に依て講話せられたり其の法左之通りあり

該病に罹りたる桑樹の幹を竹舌又は靴刷毛又は藁たわしよて磨擦し樹皮を掃除去

之を雨中あめにする時は水を灌あくの手敷を省はぶき其年の春梢はるを伐きらず一ヶ年立て通すしに  
なし翌年蠶み兒二眠頃伐取きる時は必ず全治ぜんじする事疑うたがひなし是れは容易やすき法故御試験  
あるべし該病治療かびちりょうに付ては數年間桑樹くわじゆを掘取ほり事なし全治なしむるなり

明治三十七年四月二日印刷  
全 三十七年四月七日發行

著 作 者

群馬縣利根郡沼田町二百三十七番地

叔 山 茂 十

前 同 所

發 行 所

國 盛 社

全縣吾妻郡中之條町

支 部



印 刷 所

先 覺 堂

全縣利根郡沼田町四百五十八番地

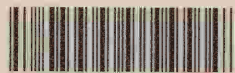
800

清玉郎平家村

氏名 村

小野寺文庫

群馬県立図書館



0499474-5